

IV-27

東北道と八戸港のアクセス道路（自動車専用道路）の計画（その2）

八戸工業大学工学部 学生員 ○渡辺 俊幸

同 上

小松与志雄

同 上

若山 忠仁

1. はじめに

現在、八戸市は日本の北の玄関口として物流の有力な拠点都市である。そこで東北縦貫自動車道八戸線と八戸港の結びつきを強化し、市内交通と分離をすることによって、物流の円滑化、交通渋滞の緩和、運送時間の短縮をはかることを目的にルートを選定、耐震設計、軟弱地盤対策、ランプウェイの設計を行った。

2. 計画の骨子

① 片側1車線、全2車線の高架で自動車専用道路。②道路区分は第2種第2級、設計速度60km/hとする。③標準断面は停車帯、除雪対策を考慮し、路肩は2.5mとする。④箱桁橋の中には暖房を入れることにより凍結防止をはかる。⑤縦断勾配は、5%以下とする。⑥正面衝突を避けるため、中央分離帯を設ける。

3. 比較線

今回の計画で図-1に示す3本の比較線を立案した。また、表-1に各路線の特徴を示す。

表-1 各路線の特徴

	全長(km)	時間(分)	利点	欠点
Aルート	6.638	11	卸センターに近い	45号の立体交差の上を通すため勾配がきつい
Bルート	6.287	10	区間長が短い	田園地帯は軟弱地盤なので地盤改良が必要
Cルート	6.446	11	河川堤防を兼用となる	立体交差が多く勾配がきつい

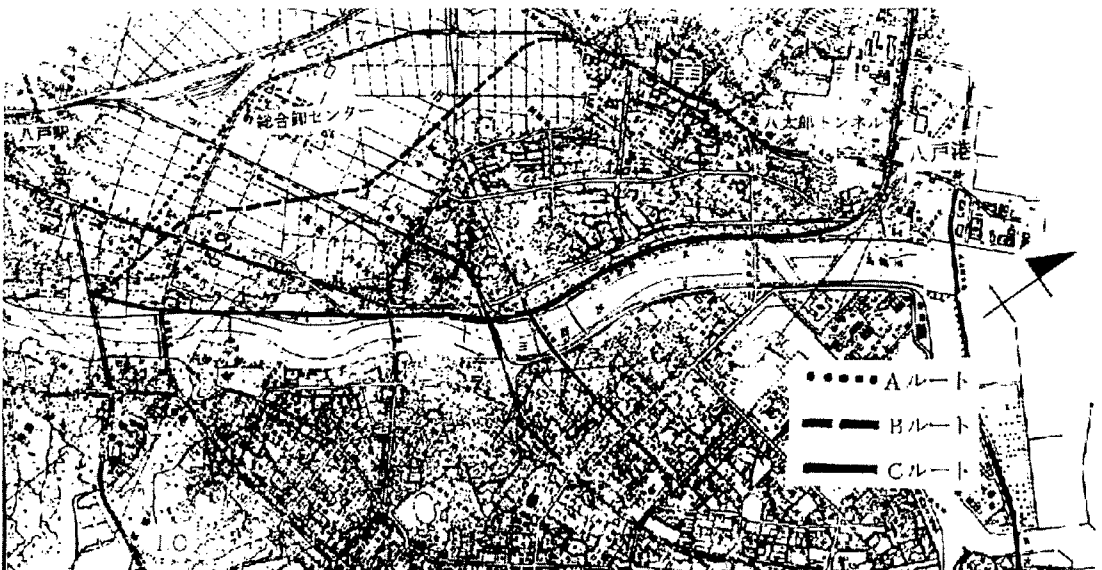


図-1 計画路線

